

児童・生徒数の増加を踏まえた学区域の検討について

1 昭島市立学校の現状及び将来予測

昭島市では、近年の大型集合住宅の建設等にもとない、総人口は微増傾向で推移しており、今後においても一定期間は人口増加が続くことが見込まれる。一方で、出生数は昭和46年の1,850人をピークに減少傾向が続き、将来的には人口減少に転じることが想定されている。

令和7年5月1日現在の住民基本台帳に基づく人口データをもとに、現在把握している今後の大型集合住宅の建設に伴う児童・生徒数の増加見込を加えて算出した令和13年度までの教育人口推計では、市内全体では児童・生徒が概ね横ばいに推移するものの、学校によって児童・生徒数の増減に大きな差が生じる見込みである。

2 昭島市教育委員会における適正規模の考え方

学校教育法施行規則第41条及び第79条並びに昭島市立学校適正規模適正配置等審議会の令和6年2月の答申を踏まえ、本市の適正規模は以下のとおりとしている。

小学校	・学級数は1学年2～3学級が望ましい
中学校	・学級数は1学年4～6学級が望ましい

3 今後を見通した課題

(1) 拝島第三小学校及び拝島中学校

恒常的に適正規模を超え、教室数の不足が見込まれる。

区 分	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
拝島第三 小 学 校	604人 19学級	645人 22学級	645人 21学級	644人 21学級	633人 20学級	647人 21学級
拝 島 中 学 校	664人 19学級	663人 20学級	662人 21学級	678人 21学級	660人 20学級	632人 19学級

(2) 富士見丘小学校

適正規模を維持しているものの、特別支援学級と合わせると教室数の不足が見込まれる。

4 今後の予定

令和7年12月頃に昭島市立学校適正規模適正配置等審議会を設置し、現状の課題等を踏まえ、学区域の見直しに向けた検討を行う。